

平成 24 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス					
教科目名	体育	担当教員	久世早苗 山本浩貴 麻草 淳		
学年学科	2年 全学科	通 年	必修	2単位	
学習・教育目標	(A-3) 100%				
授業の目標と期待される効果： 第2学年体育は、集団スポーツを主に実技を行う（バレーボール、サッカー）。集団でおこなう球技では、練習やゲームを通して個人的技能や集団的技能を高めるなかで、体力や運動能力の向上を図る。また、毎年継続して体力測定を行い、第2学年における各自の体力値の変化を知るとともに、体力向上の課題づくりができるようにする。さらに夏場の水泳では、各種泳法の技術を高めるなかで、体力の向上を図る。 ①バレーボールの特性に触れ、集団技能と個人技能を高める。 ②サッカーの特性に触れ、集団技能と個人技能を高める。 ③体力テストの実施より、体力の変化を確認し、体力向上に努める。 ④泳力の向上に努める。 ⑤集団における自己の役割を自覚し、社会生活に必要な態度を育成する。		成績評価の方法： 体育実技の評価は、以下4つの項目により観点別評価をおこない総合評価をおこなう。 ①自ら学ぼうとする「関心・意欲・態度」 ②運動実践場面での「思考力・判断力」 ③基礎技術や応用技術に対する「運動技能」 ④運動技能やルールに対する「知識・理解度」 ③の技術評価は以下のような観点から行う。 前期：バレーボール ・基礎技術修得度（サーブ、パス、スパイク、レシーブ） ・試合での技能評価 水泳（特にバタフライによる泳法） 後期：サッカー ・基礎技術習得度（ドリブルパス、リフティング） ・試合での技術評価			
		達成度評価の基準： ①バレーボールのゲームを形成する基本的な技術（バレーボールではレシーブ、トス、サーブ）の上達について。 ②サッカーのゲームを形成する基本的な技術（ドリブル、パス、シュート）の上達について。 ③安全に配慮し、他と協調しながら、自己の役割を果たせるか。 ④各種目のルールを理解し積極的に練習やゲームに取り組み、審判ができるか。 ⑤水泳では、1年次のクロール、平泳ぎの泳力向上に加え、バタフライの泳法を習得できるか。			
授業の進め方とアドバイス： それぞれの種目特性を理解し楽しさを感じるためには、個人技能の向上が不可欠である。事前に教科書に目を通しておき、練習やゲームに積極的に取り組むこと。また、練習やゲームを安全で円滑に進めるために、互いに協力し、各自の役割を果たすこと。 ※授業内容は、健康・安全面への配慮から、天候等により変更することがある。					
教科書および参考書： アクティブスポーツ（大修館）					
授業の概要と予定：					
第1回：バレーボール導入 ・バレーボールの特性と基礎知識、安全上の諸注意について 第2回～第3回：バレーボール 基礎練習と簡易ゲーム ・サーブ、パス、レシーブ、簡易ゲーム、ルール、審判法 第4回～第5回：体力テスト ・室内測定（握力、上体起こし、反復横跳び、立ち幅跳び、20シャトルラン、長座体前屈） ・屋外測定（50m走、ハンドボール投げ） 第6回～第9回：バレーボール 基礎練習と試合 ・レシーブ、パス、トス、サービス、スパイク、リーグ戦、実技テスト 第10回～第12回：水泳 ・クロール、平泳ぎ、バタフライ、水球ゲーム、タイム測定テスト 第13回～第14回：バレーボール ・試合、実技テスト 第15回：前期のまとめ（評価方法の説明と講評） 第16回：サッカー導入 ・サッカーの特性と基礎知識、安全上の諸注意について 第17回～第18回：サッカー 基礎練習と簡易ゲーム ・各種キック、パス、リフティング、ドリブル、トラップ、ルール、審判法 第19回～第23回：サッカー 基礎練習とハーフコートゲーム ・ルールと審判法の実際、ハーフコートゲーム 第24回：実技テスト 第25回～第29回：サッカー 基礎練習と試合 ・オールコートでの試合と審判法、実技テスト 第30回：後期のまとめ、1年間の体育実技のまとめ（評価方法の説明と講評）					